

新発見！考古速報 2025

岐阜県発掘調査報告会

県文化財保護センターでは、県民の皆様に、埋蔵文化財への理解と、ふるさと岐阜の歴史への関心を深めていただくことを目的に、毎年発掘調査報告会を開催しています。今年度は、岐阜県の歴史を語る上で注目すべき発見となった3件の発掘調査成果を発掘担当者や報告書の執筆担当者が報告します。また、遺跡から出土した遺物の展示を行います。

令和7年10月25日(土)

13:15 ~ 15:45
(受付12:45~)

当日受付 (事前予約不要)

会場 岐阜県図書館 1階 多目的ホール

入場無料



日焼遺跡 ひやけいせき (高山市)

平成27・28年度に発掘調査を実施した。縄文時代及び古代を中心とする遺跡で、縄文時代早期の煙道付炉穴、縄文時代中期の竪穴建物、古代の竪穴建物、掘立柱建物、礎石建物などを確認した。古代の礎石建物では、鏡が埋納されており、礎石建物の周辺で螺髪や多口瓶、鉄鉢形土器などが出土し、礎石建物は寺院としての性格をもっていたと考えられる。



鵜沼古市場遺跡C地区

うぬまふるいちばいせきしーちく (各務原市)

木曽川畔に展開する集落遺跡で、縄文時代から近世にまで及ぶ痕跡が確認される。平成26~28年度に実施した発掘調査では、弥生時代の環濠、古代の建物群、中世の大溝などが確認され、各時代に人々の営みがあったことが分かった。今回は発掘調査成果をもとに、本地域に栄えた集落の特色について紹介する。



国史跡 東氏館跡及び篠脇城跡

くにしせきとうしやかたあとおよびしのわきじょうあと (郡上市)

篠脇城跡は畝状空堀群を有する山城として知られる。令和2~4年度に実施した発掘調査では、池の痕跡や建物の礎石、土塁などの遺構を確認した。山麓の東氏の居館跡である東氏館跡とともに、令和6年度に国史跡に指定された。郡上郡内外の情勢に応じて、山麓の館から山上の館、そして山城への移り変わりを示す貴重な事例として注目される。



お問い合わせ先

岐阜県文化財保護センター 調査課

TEL 058-237-8550

月~金曜日(祝日を除く) 9時~17時

FAX 058-237-8551

E-mail: c21807@pref.gifu.lg.jp

主催 岐阜県文化財保護センター 共催 岐阜県図書館

